



News Release

05 - D - 013

2005年4月4日

独立行政法人水資源機構（証券コード： - ）

長期優先債務格付据置：「AA+」（ダブルAプラス）

債券格付据置：「AA+」（ダブルAプラス）

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり長期優先債務* および債券の格付けを見直し、据え置きましたのでお知らせします。

* 長期優先債務格付けとは、債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価（債券の格付け、ローンの格付け等）では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること（上回ること、または下回ること）もあります。

発行体：独立行政法人水資源機構

【据置】

(対象)	(格付)
・長期優先債務	AA+

【据置】

(対象)	(発行額)	(発行日)	(償還期限)	(利率)	(格付)
・第1回水資源開発債券	100億円	2001年12月3日	2011年9月20日	1.52%	AA+
・第2回水資源開発債券	130億円	2002年6月24日	2012年6月20日	1.72%	AA+
・第3回水資源開発債券	130億円	2003年7月1日	2013年6月20日	0.56%	AA+
・第1回水資源債券	150億円	2004年11月19日	2014年9月19日	1.63%	AA+

【格付事由】

- (1) 独立行政法人水資源機構（以下、「機構」という）は、03年10月1日に独立行政法人水資源機構法に基づき設立された政府全額出資の独立行政法人であり、法令上等の政府との結びつきも強い。機構の業務は、水資源開発基本計画（フルプラン）に基づき、治水・利水を目的としたダムや用水路等の施設の改築や管理等を行っており、その社会的意義、政策的重要性は高い。
- (2) 機構の主な財務リスクとしては、機構の債務償還原資である割賦負担金の回収リスクや、ダム建設等の事業廃止等のリスク、金利変動リスクが挙げられる。このうち回収リスクは、主たる債務者が地方公共団体であることから極めて限定的であると判断している。また事業廃止等に関しても、新たに利水者撤退ルールが定められたことで、機構に追加的な負担が生じることはない。
- (3) 金利変動リスクは、割賦負担金の回収条件と借入金・債券の調達条件との相違によるものである。近年は金利低下の恩恵によって受取利息の超過状態が続いており、04/3期（03年10月～04年3月）は53億円の当期利益を計上した。目先の金利上昇や退職給付費用の計上、繰上償還等にも耐えうるだけの自己資本の厚みを確保していると判断している。なお、機構は水の供給量を増大させる新規事業を行わないため、中長期的には建設事業の収束に伴い新たな資金調達が不要となるとともに、金利変動リスクも限定されたものとなると考えられる。

以上

（シニアアナリスト 小峯 崇志、アナリスト 三箇 和樹）

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行体から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 **日本格付研究所**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8
時事通信ビル

<情報提供電子メディア（検索コード）>

BLOOMBERG (和文：JCRA / 英文：JCR) REUTERS (EJCRA)
QUICK (和文：QR / 英文：QQ) TELERATE JIJI PRESS

<お問い合わせ先>

TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026 担当：情報部
http://www.jcr.co.jp